

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

活動名	第1回もりぐらしフェスティバル
活動団体名	一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会
活動目的	私たちの暮らしを支える森里川海。その森里川海のつながりが自然の循環を生み出し、自然の恵みに支えている。その生命の源である「森」「里」「川」「海」が気候変動や人々の営みによって、生態系が荒廃し、甚大な自然災害にも影響を及ぼしている現状に際し、次世代につなぐ体験型イベントを実施することによって、その森里川海を守り、育て、つなげ、支え合い、その恵みを享受し、自然に対する畏敬の念や環境を改善していくことの大切さを身体で感じ、学び、美しい自然を取り戻すことを永続的に実行していかれるようにすることが目的。 日本地図の中でも「へそ」にあたる諏訪湖周辺を起点とし、天竜川流域、そして、太平洋にそそぐ地域の人々とも手を結び、紡ぎ合って森里川海を支えていかれるよう第1回の開催場所を蓼科にて開催。 環境省の「森里川海プロジェクト」に賛同し、環境・経済・社会の課題も解決し、脱炭素・資源循環・自然共生社会が同時に実現する「地域循環共生圏」の創造とSDGs「持続可能な開発目標」への達成を目指し、普及啓発を推進すること。
活動内容	開催日程：2024年10月5日（土）6日（日） 2日間 開催場所：長野県茅野市北山鹿山4026-2 蓼科東急リゾートタウン内 主催：一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会 共催：東急不動産 スペシャルパートナー：セイコーエプソン株式会社、東京海上日動保険株式会社 ローカルサポーター：スワテック建設株式会社、野村ユニソン株式会社、ホクト株式会社、株式会社リーズ、株式会社グットライフ、松本日産自動車株式会社、諏訪交通株式会社、KOA 株式会社、一般財団法人伊那谷財団、RE 諏訪湖株式会社 サポーター：株式会社 KOUSEI、シナネンホールディングス株式会社、シナネンファシリティーズ株式会社、諏訪森林組合、有限会社センス、株式会社社長大、テンホーフーズ株式会社、有限会社ファットエバー、ヤツデザイン合同会社、山崎泰史税理士事務所、株式会社祐伸、株式会社ライトワーカー 協力：財団法人三千年の未来会議、いのち・ちぎゅう・みらいプロジェクト、諏訪森林組合、信州マーケティングラボ、特定非営利活動法人住み良いまちづくり研究所 後援：長野県 (諏訪地域) 岡谷市、諏訪市、下諏訪町、富士見町、原村、 (天竜川流域) 伊那市、駒ケ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、飯田市、松川町、高森町、阿智村、根羽村、下條村、豊丘村、大鹿村、

	(太平洋側) 浜松市、磐田市の 24 県市町村 参加者数：中学生等子ども 60 名 大人 60 名 計 120 名 スタッフ：40 名 【実施内容】 蓼科東急リゾートタウン内の広大な敷地を活用し、4つのグループに分け、昼の部 ①間伐体験、②森の小道づくり体験、③脱炭素カードゲームを実施、間伐体験は全員参加。夜の部 希望参加により、①森林ナイトウォーク、②フォレストアドベンチャーを実施した。また、夜には、元環境事務次官中井徳太郎氏の講演、関係各社より環境政策についてのスピーチを実施、記念植樹も行った。	
活動写真		
写真説明	間伐体験	森の小道づくり
活動写真		
写真説明	脱炭素ゲーム	元環境事務次官 講演
		
写真説明	ナイトウォーク	フォレストアドベンチャー
活動効果	2 日間に亘る森の中での体験型イベントにて、参加した中学生の親子らに好奇心と共に連帯感が生まれ、「森」「里」「川」「海」のつながりと自然資源の循環利用の大切さを肌で感じ、この中で体験し、学んだことを通じて、一層、自然との共生、環境保全対策に目を向け、実行する意欲へとつながり、「地域循環共生圏」の重要性の理解を深め、促進することが出来、大いなる成果となった。	
今後の展望	今回の開催にて、自然環境の保護、保全に対する賛同者、共感者も増え、「森	

	里川海プロジェクト」の趣意も浸透しつつある。
--	-------------------------------

「森」から始まったフェスティバルも今後、天竜川流域から太平洋へとつなげ、広域で開催し、続けていくことで、「森里川海プロジェクト」の意義、目的を達成し、拡大、推進していく。

活動日 2024 年 10 月 5 日～2024 年 10 月 6 日